



大阪初芝学園 教育シンポジウム

世界に通用する学び

— 21世紀の小学校教育を考える —

大阪初芝学園は、これからの子どもたちが、世界で活躍するために必要な学力・人間力、そして、未来を創造する力を発揮できるように、日々の教育活動を通じて取り組んでいます。その一環として、今年2月に「世界に通用する学び—21世紀の小学校教育を考える—」というテーマで、教育シンポジウムを堺市民会館にて開催いたしました。はつしば学園小学校教育顧問陰山英男氏を講師とし、講演とパネルディスカッションを行いました。



講演

これからの日本は、教育だけでなく社会構造も大きく変化していきます。そういった時代に、世界を視野に考える保護者のもてないグローバルな視点を持つ子どもは育ちません。

世界に通じる学びを考えていく上で、まず考え方を改めなければならないことは、今までの教育の常識。これから常識が、いかに間違っているのかを踏まえながら、話を進めていきます。

◆ 集中とは「手段」ではなく「目的」

脳に良いことは、脳を遅くして、鍛えること。勉強の場合、一定量を短い時間に多くこなすことが重要。長く時間をかけるほど、子どもはだれてしまいます。

勉強とは、脳をうまく使うトレーニングであり、そのためには、脳が元気でなければなりません。脳が良く働いているときは集中し、集中はリラックスから生まれる。勉強は、難行苦行のイメージを刷り込むのではなく、本来楽しくしなければなりません。また、成績を上げるために、集中させようではなく、人間は集中ということを学んで初めて自己実現ができます。そのために、勉強というプランがあるということ。だから、集中とは手段ではなく目的です。

◆ 睡眠の大切さ

まず、一番大切なのは睡眠時間です。7〜9時間睡眠を摂ると、成績が良くなる。それ以下やそれ以上の睡眠だと成績は落ちてきます。人間の記憶というものは成長ホルモンによってなされます。この成長ホルモンの分泌は、午後10時〜午前0時にピークを迎える。それを踏まえると、午後8時〜9時の就寝が一番脳に良い。1時間遅くなるに比例して成績が落ちてきます。午前0時以降は著しく酷くなり、授業についていけなくなる。さらに、メラトニンとい



プロフィール 陰山英男氏
はつしば学園小学校教育顧問
立命館大学教授
立命館小学校校長顧問
文部科学省中央教育審議会
教育課程部会委員
大阪府教育委員会委員長

独自のプログラムに基づいた「読み書き計算」の徹底反復練習と家庭生活の改善で子どもたちの学力を驚異的に伸ばす。その指導法は「陰山メソッド」として教育者、保護者から注目を集めている。

◆ 朝ご飯は食べること

人間の精神をつかさどるホルモンがあり、その分泌のピークを超えた午前1時〜2時まで起きていると成績だけではなく、性格まで悪くなる。遅くまで起きていることがいかにダメかということ。

次に食事についてですが、沢山の食材で栄養を摂ると体力・気力・学力すべてが向上します。一週間にどれだけの品目数を食べればよいかというと、絶対的品目数は70品目が理想。実際に実践した学校は学力・体力が向上し、高いレベルの大学へも進学しました。高い学力をつけるには、高い能力を発揮する脳をつくること。どのように脳を育て、どのように脳を鍛えるのが、子どもたちの学力を高める方法。そこで、一番重要なのは朝ご飯です。毎日朝食は食べないと、ほとんど脳が壊れます。農林水産省が、朝食と年収の関係という興味深いデータを出しています。それは、志望する大学や就職が上手くいくかどうかは朝食が影響しているというデータです。学力向上には朝ご飯がもっとも効果的です。

◆ 読書について

一般の大学生も東大生も、幼少期には音読を沢山しているが、東大生と一般大学生との

歴然とした違いは、家庭での読み聞かせの量によります。読書家でもある爆笑問題の太田光は、幼い頃に母親が読み聞かせが好きで、自ら楽しみなが沢山してくれたから本好きになったそうです。読み聞かせは、子どもの為にすることはなく、親自身が読み聞かせを楽しんで、それに子どもが付き合う感じが一番良い。

◆ 国内グローバル化について

今後30年間で、日本の労働者人口はほぼ半減し、今のGDPを維持するために、外国からの労働者が必要になってきます。今後、オリンピックなどで外国人が大量に流入し、そのまゝ日本の企業に就職する現象が必ず起きます。そうすると、国内の企業では、採用するのは日本人か外国人かというレベルになります。また、海外からの留学生の受け入れも急増し、留学生が帰国せず、日本の企業に就職するパターンも増えています。立命館アジア太平洋大学でも、留学生は日本の一流企業に就職しています。これは、まさに日本国内のグローバル化。日本の商品を、東南アジアで欧米と競って買ってもらうかではなく、この大阪、堺で日本人が外国人と競って就職を勝ち取れるのかという状況になるということです。

◆ 公用語としての英語

仕事でフランスへ行った時、会議は、当然フランス語と思っていたが、「英語で行うかフランス語で行うか」と聞かれ、会議中も終始英語が飛び交い驚かされました。

マイクロソフト社主催のコンピュータを使った学習の国際コンテストがあり、審査員として参加しました。流暢に英語でプレゼンを行う他の国の学生に対して、日本の学生は英語で書かれたものをただ読んでいただけでした。今や世界では英語が公用語となり、日本も早い時期から英語を取り入れていかないと、世界に立ち遅れてしまう。そのあたりの課題も含め、次のパネルディスカッションで討論したいと思えます。ありがとうございました。

親から受け継がれる言葉

陰山氏

今の教育を考える上で、普遍的なものと今の時代性のある、言わば二つのテーマ、「人間教育と英語教育」のバランスをどうとつていけばいいかを考えてみたい。それでは、各パネリストから今のお考えを述べていただきます。まず、熊本さんからお願ひします。



くま教育センター代表

熊本 季治氏

幼児の持つ無限の可能性に魅せられ京都幼児教室を開講。その後、東京こどもセンター関西教室を開講幼児教育の研究実践に取り組む。

100万人を切っていく。ますます、日本はグローバルゼーションの中で国際的な人も物も混在します。そういった環境で日本人としての心根、倫理観を持ち合わせ、その原点は、親から授かったという思いが持てる人間を幼少期から育てなければならぬと思っています。

コミュニケーションツールとしての英語

陰山氏

次に、国際的なお仕事と生活をされている観点で、オーマンディさんから話をお願いします。

オーマンディ氏

40数年ほど教育にかかわっている中で、今もとても大切だと思っている子どもたちにとっての言葉は刷り込むかです。この子が将来どんな子どもになるか、世に出てどういう志を持つか、その原点になるのは両親がどんな人生観を持ち、自分の親からどういう言葉を継承して今まで生きてきたか、それを我が子にも継承できているかが大きく影響します。いい言葉は自分の子どもにも継承させていく必要があるのではないかと思います。

半世紀、アメリカ人の夫と日本人の英語教育に携わりながら、現在も4つの国で仕事をしています。日本と外国と半分の生活を送っていますが、世界では仕事で英語を使うことは自明のことです。そういった環境の中で気付いたことは、日本人はどうしてそんなに英語に対して、卑下しないといけないのかということ。ともかく英語を自然に使い、自分の意見を通すことができるようになってほしい。必要以上に英語を話さなければ、外国では意見が通りません。外国では、英語が苦手でも自然に話す。アジアの中でも、日本は一番長く英語教育をやっている割には、話せる人が少ない。それは文化的な

背景や遠慮深さ、劣等感が日本の英語教育をゆがめているからだと思います。

英語は世界の共通語であり、コミュニケーションのひとつです。英語を勉強するのではなく、人間が幸せになる喜びの喜びを学ぶために英語を習得するのです。英語に劣等感を持たず、二方面で日本の誇るすばらしい伝統と歴史と将来も考えながら、身に付けて欲しい。

また、教育は学校教育だけでなく、家庭教育・地域教育そして世界の人たちがお互いに手を繋ぎ合っていくことがその国の教育が成り立ちます。外国の教育の影響なくして、日本の教育も良くなりません。



PLS 英語教育研究所長
パシフィックランゲージスクール副校長
マスミ オーマンディ氏

英語早期教育のパイオニアとして、現在のPLSシステムを確立。数多くの英会話学校、幼稚園、保育園、小中高等学校の英語教育コンサルタントとしても活躍。

小さな成功体験を重ねる

陰山氏

東さんは、会社を経営されている立場で、日頃お感じになる学校教育との関係などを教えてください。

東氏

父親の会社を継いで、東京・大阪を中心に社員を抱えています。会社の中で社員と接する上で、幼少教育の大切さを実感することがあります。

バブル期の終わりに仕事を引き継ぎ、大変な時期も経験しました。その中で判断を即座にしていけないといけない局面に幾度か遭遇し、そういう時にこそ、これから先をみた判断が必要になってくる。しかし、近頃の社員をみると、言われたこと以外はしない、善悪の判断ができない、何が利己で何が利他なのかの判断ができない人が多く、根本的な判断基準はどこで培われるのかと考えさせられる。そんな時、ふと幼少の頃に学んだ「ウサギとカメ」や「さるかに合戦」の話を思い出さることがあります。社会に出た時に迫られる判断基準は、実は幼少期の教育に根幹があると気付かされます。

また、生きていく上で必要な人間力や考え方を学ぶ最良の方法の一つとしては、今成功を取った人の体験を知る機会が一番だと思います。未知の可能性をもっている子どもたちに小さな成功体験を是非させてあげたい。小さな金メダル



はつしば学園小学校
若葉会(保護者会)会長

東 久資氏

はつしば学園小学校保護者会若葉会会長として、小学校教育の一層の充実を図るため、保護者会組織の核となり活躍。

大阪初芝学園

教育シンポジウム



世界に通用する学び



を与えてあげられることが大切。会社経営の中でも、大きな数字や大きな仕事を扱うとストレスが溜まる。そんな時、出来る範囲の小さなことから取り組むと、やりやすく、達成感もある。そういう小さな成功体験の積み重ねが幼少教育には大切です。

グローバル人材を 目指した教育

陰山氏

グローバル人材の育成に向けて、学校でどのような取り組みをされているか、小山先生にお願いします。

小山氏

グローバルな人材を育てていくために、日本語禁止のネイティブによる英語の授業を本校では1年生から行っています。1クラスを二つに分けて、聴くことを中心に学び、徐々に話す、読む、書く。子どもが母国語を習得するように英語に接していきます。よりグローバル化を目指すには、英語を学習するのではなく、英語で表現できるように努めています。来年



はつしば学園小学校校長
小山 久子氏
公立小学校校長、堺市教育委員会学校教育
部教育センター所長を務め、はつしば
学園小学校校長へ平成24年4月就任。

度は子どもの感性が活かされる音楽や図工などの教科で、英語を用いて授業ができるようにしたい。この実践は、グローバル化の道へ進む上で着実な方法と考えています。

本校では希望制のカナダ留学や、日本国内で海外を想定した夏キャンプなど数多く実施しています。外国の方に触れて、異文化を学んでいます。着実にグローバル化に取り組む二方面、日々の授業は大切にしたい。授業の中で何をやるかが大切で、授業は人間形成だと思っています。授業の中で集中力・判断力・コミュニケーション力をつけてもらいたい。そのための授業であって欲しいし、しっかりと人間形成ができる授業になるように心掛けています。

世界に通用する学び

陰山氏

子どもの学力は、友達も先生もいない、誰もいないところで試される。子どもが力を出すといいことを想定してなされていけばいいのですが、教師は時間内の指導に重きをおいてしまう。例えば、宿題を一人できちんとできるかどうか。そういう土台作りの授業であれば良い。しかし、教師というものは、業界的な授業に終始してしまっている。多くの保護者は、至れり尽くせりの

教育を求めていると思いますが、その教育を小学校から高校まで続けると、至れり尽くせりでないと動けない人間が育ちます。グローバル人材とは、まったく何もない、文化も違うところで、自分を表現できるかにかかっています。そういった根本的な矛盾が認識されていません。保護者から要望があれば、どんな手を加えるため、気づいた時にはこの環境がないと勉強できないことになってくる。綺麗な校舎でしか勉強できないとなると、ジャングルの山奥で現地の言葉を使っている自分を表現できるのだろうか、ということも考えないといけない。



コーディネーター
陰山 英男氏

英語を聴く力

陰山氏

日本では、これだけ中高大と英語教育に時間を割きながら、なぜ英語が身に付かないのでしょうか。

オーマンディ氏

日本の今までの英語教育は、指導法と解説ばかりで、練習する時間が少ないからです。1時間に1/3しか英語をしゃべっていない。昔の教師はあまり英語がしゃべれなかったのも二因です。それと、日本では英語を使うチャンスが少ないので、英語の必要性を感じないということです。また、教育現場での減点主義というマイナス評価方法が劣等感を植え付けます。

そして、日本人が英語ができないのは「聴く力」がないからです。イタリヤなどでは、英語は圧倒的に聴くチャンスもあり勉強する時間が多い。日本は、日常英語に触れる機会が極めて少ない。できるだけ、英語に興味をもてるようにMUST-HAVE TOではなくWANT TOになるようにさせたい。

これからの初等教育

陰山氏

それでは、最後にお二言ずつお願いします。

熊本氏

日本は、古来から「言霊の幸う国、大和の国」という言葉があり、言霊の力で幸せがもたらされるという。言葉の力は偉大です。心根に入るそういう含蓄のあ

オーマンディ氏

学校教育も大事ですが、家庭環境がもっと大切。また、学びの喜びを、家族で子どもに見せてあげて欲しい。外国へ出て初めて、他を知り自分を知る、日本の良いところ悪いところを知ることができ。比較できる力や価値観を小さい時に育てることが大切。できるだけお子様を海外に出すこと、それが一番です。

東氏

私自身も大学を出てから留学を経験し、勉強したつもりであったが、ネイティブの会話が聞けないことにショックを受けた。苦い経験を思い出しました。今回の話で、聴くことの大切さを改めて実感しました。

また、陰山先生の「目的は集中させることで、手段として勉強させる」ということは目から鱗であった。

私からの願いは、子どもの未知なる可能性に、沢山チャンスを与えてあげてほしいということです。

小山氏

英語を話してもグローバルではない人はい。本当の意味でグローバルな人間に育ってもらいたい。そのためには、授業の中で、自分で物を見、自分の心で考える、そんな子どもたちを育てていきたい。子どもが自主的に考えるような授業をすすめる、本当のグローバルな人間を育成していきます。

はつしば学園幼稚園

卒園式と入園式

桜の花のつばみが膨らみ始めた3月13日。別れを惜しむかのように、小雨が降る中の卒園式となりました。子どもたちは、一人ひとり立派に胸を張って卒園証書を受け取り、皆勤賞や縄跳び大会で頑張った事を表彰され、新しい小学校生活に、自信に満ち溢れた表情で晴れやかに卒園しました。元気にたくましく成長してくれることを願っています。

4月8日には、138名の新入園児を迎えました。親元から離れて初めての集団生活のスタートです。子どもたちが少しずつ自立し、毎日楽しく登園できるように、また、保護者の方にとっても安心して送り出して頂けるように、職員一丸となって丁寧な保育を行っています。

あったかい給食おいしいね!

今年度より衛生面の向上と子どもたちに温かい給食が提供できるように、スチーマーを使って再加熱をするシステムを導入しました。みんなと一緒に食べる温かい給食に子ども達も大喜びしています。同時に、井や子どもたちの大好きなカレーライスなど、多彩なメニューを取り揃えました。これからも食育の一環として、野菜の収穫体験やクッキングなどを実施し、苦手な食べ物も少しずつ食べられるように努めていきます。



初芝スイミングスクール

優秀選手を続々輩出!

本科生の《秋の遠足》《春休み短期教室》などイベントも盛大に盛り上がり、より一層、活気あるスイミングになっています。

選手コースも新年フェスティバル水泳競技大会(クラブ対抗)に数十連覇を継続し、初芝スイミングスクールに優勝トロフィーを持って帰ってきています。また、初芝立命館中学校2年生の安芸佑一君をはじめ、多数の全国大会出場もしています。

同スクールの日本代表選手小林奈央選手に続く選手が次々と全国大会で活躍しています。小林奈央選手も《アジア大会》《パンパシフィック国際大会》の代表選考会でもある6月に行われるJAPAN OPENに照準を合わせ、小林ヘッドコーチと共に日々精進しています。

小林選手をはじめ、今夏、他の選手の活躍にも大いに期待しています。



平成26年度 進学実績

初芝立命館高校

北海道大学	1
大阪市立大学	1
大阪府立大学	2
鳥取大学	4
防衛大学校	1
など	
国公立大学(大学校を含む)	14名合格

立命館大学	144
立命館アジア太平洋大学	14
関西大学	13
近畿大学	39
など	

私立大学443名合格



初芝富田林高校

京都大学	3
大阪大学	10
北海道大学	1
東北大学	1
名古屋大学	1
九州大学	1
神戸大学	4
大阪市大学	3
大阪府大学	6
など	

国公立大学(大学校を含む) 110名合格

早稲田大学	3
慶應義塾大学	2
関西大学	69
関西学院大学	21
同志社大学	30
立命館大学	32
近畿大学	102
など	

私立大学551名合格

初芝橋本高校

大阪市立大学	1
大阪府立大学	1
和歌山大学	2
徳島大学	1
島根大学	1
など	

国公立大学(大学校を含む) 11名合格

早稲田大学	1
立教大学	1
立命館大学	15
同志社大学	2
関西学院大学	5
関西大学	16
近畿大学	31
など	

私立大学221名合格

はつしば学園小学校

内部中学校への進学実績	
初芝立命館中学校	9
初芝富田林中学校	36
初芝橋本中学校	13
計58名が進学	

外部中学校合格実績

ラサール中学校	1
西大和学園中学校	3
大阪星光学院中学校	4
明星中学校	4
函館ラサール中学校	2
四天王寺中学校	3
清風南海中学校	9
など	

有名難関中学校94名合格

永年勤続職員表彰

平成26年5月22日 (敬称略 五十音順)



勤続30年 初芝立命館中学校高等学校 竹谷 周久
平田 善行

勤続20年 初芝立命館中学校高等学校 上野 和弘
安田 悦司
初芝富田林中学校高等学校 濱田 律
初芝橋本中学校高等学校 佐本 一晃

勤続10年 初芝立命館中学校高等学校 木村 友保
山本 彩路
初芝富田林中学校高等学校 竹内 鉄二
福井 一徳
初芝橋本中学校高等学校 北條 弘毅
中山 岳
宮村 美和
加藤 武志
はつしば学園小学校 辻本 正史
法人本部 大賀 拓也

平成26年度 大阪初芝学園 入試イベントスケジュール

はつしば学園小学校

- ◎授業交流体験 (要申込)
5月31日(土) 8:40~11:00
- ◎入試説明会
5月31日(土) 9:20~11:25
11:25~は個別相談会
8月24日(日) 10:00~11:30
11:30~は個別相談会
10月11日(土) 10:00~11:40
11:40~は個別相談会
- ◎オープンスクール (要申込)
※給食体験あり
6月26日(木)
10:55~13:20 給食試食会を含む
- ◎体験入学 (要申込)
8月24日(日)
10:00~体験1
11:20~体験2 百玉そろばん等
11:30 終了

初芝立命館中学校

- ◎オープンスクール【小6年生対象】(要申込)
※保護者対象入試説明会も同時開催
6月14日(土) 13:00~[授業体験 英・理]
[クラブ体験 小4・5年生対象]
10月12日(日) 10:00~[中高合同入試説明会・入試対策講座]
11月2日(日) 8:30~[プレテスト]
- ◎個別相談会【小6年生対象】(要申込)
11月29日(土) 14:00~[プレテスト受験者対象]
12月13日(土) 14:00~

初芝立命館高等学校

- ◎入試説明会(先着順)
9月13日(土) 14:00~[授業体験 英・国・数]
10月12日(日) 10:00~[中高合同説明会・授業体験 理・社]
12月6日(土) 14:00~[入試対策講座]

初芝富田林中学校

- ◎オープンスクール【小4・5年生対象】(要申込)
6月7日(土) 9:00~
- ◎体験入学【小6年生対象】(要申込)
7月19日(土) 9:00~
- ◎入試説明会
9月13日(土) 14:00~
- ◎プレテスト【小6年生対象】(要申込)
10月18日(土) 8:30~
- ◎プレテスト個別相談会【小6年生対象】(要申込)
11月1日(土) 9:00~
- ◎個別見学会【小6年生対象】(要予約)
11月22日(土) 9:00~

初芝富田林高等学校

- ◎入試説明会
10月25日(土) 14:00~ / 11月29日(土) 14:00~
- ◎個別見学会 (要予約)
12月13日(土) 9:00~

初芝橋本中学校

- ◎体験入学【小5・6年生対象】(要申込)
6月21日(土) 9:00~
- ◎プレテスト【小6年生対象】(要申込)
9月6日(土) 8:50~ / 11月8日(土) 8:50~
- ◎入試説明会
6月21日(土) 9:00~[保護者対象]
9月6日(土) 9:00~[保護者対象]
11月8日(土) 9:00~[保護者対象]
11月30日(日) 14:00~

初芝橋本高等学校

- ◎学校見学会【中学生・保護者対象】
9月13日(土) 9:00~12:00
- ◎オープンスクール (要申込)
10月25日(土) 10:00~
- ◎入試説明会
11月8日(土) 14:00~ / 11月30日(日) 14:00~



第7号をお届けいたします。今回は先日行われました2014大阪初芝学園教育シンポジウム「世界に通用する学び—21世紀の小学校教育を考える—」の講演とパネルディスカッションを特集記事にいたしました。これからのグローバルな視野を持った人材を育成していく上で必要な要素とは何か、その観点からあらためて初等教育を見つめ直すきっかけになれば幸いです。